

## 松川 勇記 「日誌」

昭和11年12月1日（火）

大分掃除を済まし行事を終わり、7時20分出発、大石町神社に至る。30分より社殿に昇り、神官の修祓玉串奉獻。余の礼拝の後、神酒を戴き保険部員、相談所員一同と神官を中心に写真撮影。8時飯り、朝食を喫して出勤す。本朝の行事は、相談所3周年記念日、被保険者健康祈願祭を営みたるもの。午後4時、横町君経理課喜久川書記補を案内して城趾を訪ね、宿屋に会食したる由。余も4時半帰宅、5時出発、相談所に至る。来賓数名、保険部員多数来て居る。5時40分、約20名に達す。即ち開会す。余の挨拶、松崎先生の所感。夫れより開宴。其の間医師会長、薬剤師長、来賓側より福日記者、其の他感想発表せり。松崎先生及び余答弁、保険部員及び黒岩氏等より夫れ々々弁明。7時半概ね閉会、8時まで部内者と交歓。余第1着に帰る。後刻折り詰めを届け呉る。此の出費、折り詰め1、30、酒26、関東煮15、盃1箇を副ふ。

昭和11年12月2日（水）

曇り、降雨あり漸く寒し。昨夜金庫を、符号を合せ開くを得たり。風強し。黒岩君来たり。笹谷氏外1名より祝儀を貰ひたるが、如何すべきやを訪ね出ず。余返戻を慫慂す。後刻、確かに返戻せし旨、告げ来る。此の朝、余痔出血を惧る。遂に無事にて嬉しかりし。新聞数日分見ざるを読み終る。日誌数日分怠る等、3周年記念日の祟り多し。10時寢床。橋本君にアンテナ代30余銭と云うを、銅線や被覆線やを算入せば相当価格に達すべきを認め、金貳円を過般50円弁償の寄付名義にて、同氏に遣わす。

午前9時20分より東唐津駅に至る。局員多数来る。下尾氏の入営を送る為の一行なり。プラットフォームにて下尾君に挨拶し、発車を合図に萬歳を三唱す。萩谷助役、発車後感激の挨拶あり。偶々一緒にバスに乗り合わす。昨夜3周年記念日に出席を期待せしに、遂に見えられざりしを遺憾とする旨告ぐ。初めて心付きし風にて、全く失念申し訳なしと謂わる。其の際、市役所で整理退職せし某を、年末繁忙期間使役方申出らる。午後本人を遣さる。江崎君に任かす。黒岩君より折2箇残りし由、処分方質し来る。1を助役にと申し遣る、他は商工会議所に贈りし由なり。椅子卓子類借用の礼心とす。

昭和11年12月3日（木）

寒気遂に霰（あられ）となる、時々降雨。葉書印刷方道子に頼み、秀夫に葉書申し遣る。印判の調製を庶務に頼みたるに、当地は高価にて大牟田に頼み居ると云う故、中津に頼むこととし取戻したり。橋本君明日より2日間、ラジオ取締まりの為、名護屋呼子へ出張決裁の旨、此の朝熊本より電話、早速明日よりとせし如し。相知局長より返事あり、道子に面接の機を得たしとあり。人間通雑誌来る。2円1年分送金せしを以てなり。

昭和11年12月4日（金）

寒気可なり強し。朝温まれぬ儘、出勤す。雨降りそうな天候乍ら、洋傘を携えず出発。橋本君明日より出張すべしと云う。日曜の出張は余り感心せざるべしと、横町君に注意。本日書類の到着を見て出発せしむ。10時到着せしも、聴取者原簿送付せず、2日の出張も日帰りとあり。是れで盗聴者の発見は事実容易ならざるべし。橋本君出

発せり。市外送視江崎君を指令し、見学に中島君を久留米大牟田に送ることとす。新聞記者来局。余に新年の所感を新聞紙に掲載せんことを請う。保険主事より火鉢の交付方、庶務主事に要求するも承知せず。共通主事之を所有しつ。保険主事独り所持せぬは保険を侮辱し居るものなりと、部下の抗議に黙し難く、余に訴えしものの如し。庶務主事をして、速やかに交附方手配せしむ。賑る頃、雨となる。急いで帰る。

昭和11年12月5日（土）

曇り、時々晴れ。朝四時半頃より風出て、次第に寒くなる。朝の体操、雨滴落来りたるより屋内にてやらす。併し降るに至らざりし。零時半航空世話役石井忠夫氏来。中島猪作氏と懇意にて、当局懇談会に航空郵便を持出したるに気を良くし、余を訪ねたるものの如し。昨年、余が一二度（？）局長会にて諮問案に答申せし一二種郵便遞送速達に対し、航空機利用を叫びたる速記を示し、関心を有することを諒知せしむ。中島氏先年後妻を娶りたるが、目下眼疾に罹り医薬効なく、頻りに民間の流行神仏に祈願するやに聴く。人間も弱くなると、迷信に陥る嫌いあり。夜澄子に理髪して貰う。前を二枚用いしむ。横町夫妻来宅。恰度一時間、色々余の九州に来るに至りし理由を話す。九時帰る。道子歯を磨き居り誰も出でず。新聞を見、十一時近く寢床。

昭和11年12月6日（日）

曇り、時々陽光を仰ぐ。寒し、電気蒲団を用い手紙を認む。昨朝日機進羅盤谷飛行、台湾に10時間50分余にて着。本日一気に目的地に驀進の筈。同時に仏蘭西よりジ

ャピー氏に次いで第2の百時間飛行、東京目指して出発。道子明日、竹宮先生を大里に訪ひたしと申出ず。ショール色揚げ依頼したるを督促するやら、汽車時刻表を研究するやら、態度不可解を思わしめたる謎解けたり。本日相知佐伯氏に返事発送せり。新年会に招待のこととせり。昼食時、久子甘藷焼きを一個持ち来る。朝小使い、自転車にて本期手当文書持ち来る。横町氏に通告す。

昭和11年12月7日（月）

曇り、偶に晴れることあり。唐日新聞広告に相談所三周年を祝い、利用者側より相談所に対する報謝の意より、相談所全員及び局長以下二名を招待する計画あり。明日に迫り居ることを知る間もなく、案内状到着。此日手当分配に付き、大体の方針を与ふ。道子此の朝、大里の竹宮先生かかり赴く。局より五時過ぎ飯り、夕食を摂る。居るべき者が見えざる淋しみを感じつつ入浴。ズボン下を改め、猿股を換え髯剃りす。十時過ぎ寢床。

昭和11年12月8日（火）

朝降雨の惧れあり。ワイシャツを改め、出勤8時半なり。体操室内にて行ふ。手当分配の為、局長室に係主事集合。牟田代氏飯り、午餐後、余の査定に移る。夫々決定して残余を電話に交付す。電話部甚だ尠き嫌いありしを以てなり。三時半、伊藤名護屋局長臨局。四時相談所より医師黒岩君見えたり。名護屋局長を送りて、横町福田両氏を誘い、四時二十五分出発。看護婦二名跟いて来る。会員多数七十余名に上りし由。既に半数の出席有り、四時四十分開会の挨拶有り、余の答辞医師の謝辞にて開宴。唐日富岡氏より一時間余、此の間写真撮影。富

岡氏の相談所萬歳三唱、余の来賓各位の萬歳にて、漸次散会。一旦局に引揚げ三十分程黒岩君相手に話し、六時半帰宅。夕食を済まし入浴。道子販らず、十時寢床。笹谷氏出席者名簿調製の旨申さる。

昭和11年12月9日（水）

朝の間快晴。佐賀市久米宗利氏臨局、余の疑問とする所を悉く闡明（せんめい）して貰ふ。再考を促し置きたり。商船学校廃校になり転校できたるに不拘、中学校に入り、卒業後電機学校に入学し、中途退学したる等、自己の志望に対し定見を有せず。剩つさえ歯科医専を二年にて廃学したるは、事情の如何を問わず、志望を二三にし薄志弱行の譏りを免れず。学資に窮せりと云うも、一旦入学せしめし以上、自己の生活を犠牲にしても其の子の成業を翼賛せざるべからざるべし。当局に採用に際し、左記問題に解決を与ふる様注意せり。乃ち二十四歳の年輩を以てし、十八九歳の青年と低給に甘んじて仕事をなし得る宏量ありや。有りとせば昇進の途を如何にして講ずるか。前途に光明なくして満足に働き得ぬことは当然なり。然らば光明を見いだす方策、如何等々。午後五時手当発表、一場の訓諭を与ふ。集配手にも同断。六時帰宅。

昭和11年12月10日（木）

快晴、春の如く風なく温暖なり。朝、梅焼酎問題にて久子に疑いをかけ、道子が庇護して大問題となる。道子も久子も泣く。飛んだ罪作りをしてけり。道子は昨夜福岡より販宅。状袋揚子33求め来る。横町君より北野純一より返事なき旨、余に何とか通知はなきかと尋ねられたり。

何ものなしと答え置きたるが、大抵何とか返事が来そうなもの。猶一兩日待呉れと申し置く。然るに3時過ぎ又右衛門氏来たり、純一氏も見ゆ。局よりの書面は、昨日受け取れる由。仍って一先ず余の官舎に送り込み、余は午後六時帰宅。此の日快晴、前田鉄道大臣十時過ぎ来唐。名護屋城趾を見て、綿屋に於ける歓迎会に臨む。会衆五十剩り、余は六番の籤（くじ）にて大臣の向い側に座す。西山市長、昨夜シーサイドホテルに於ける唐津市築港座談会を終えて上京中。萩谷助役、市会議長等幹旋助役の挨拶あり。大臣の唐津の将来性を祝福したる答辞ありて開宴、一時半萬歳三喝裡に乾盃す。園より東唐津二時五分発にて福岡に向はる。会費250。六時帰れば、純一氏未だ見えず。少時して来る。後にて、大手ビルに買物に行きしこと分かる。入浴後、二階に休息せしむ。終日暖かなり。

昭和11年12月11日（金）

朝曇り、十時頃より降雨、時に歇む。又右重門氏臨局。純一氏に採用辞令83交付。田代主事の宅にて、下宿せしめ置く由。其所に差し置くこととせり。十四円の賄い料と聞く。小使いに蒲団を運ばしむ。父親は十時四十三分発にて販る由にて、十時辞去す。恰度雨歇み、雨具の準備なき身には都合がよかりし。主事補一名増員となり、人選に山中氏を招き調査す。黙して答えず。乃ち調査を打ち切りたり。山中氏推薦の菊池武仁氏を電話にて尋す。不在にて二回とも意を得ず。

昭和11年12月12日（土）

昨夜来降雨、朝歇む。出勤時洋傘を持たず。午後時々

降る。黒岩氏十五円、福田氏二十五円賞与金到着。菊池氏電話にて昨福岡行きの為、失敬せりと謂はる。余伺うべき旨話せしに、先方より来るべしと謂はる。十時半臨局。分室問題に付き色々話さる。最後に山中氏の件に付き、昨日色々尋ねしこと、及び何等応答なかりしことを話す。電話部が幾派にも分岐し、勢力を争い居ることを話さる。勿論山中個人に対しても、欠陥多きを認め居らる。一時間にして帰らる。午後五時二十五分、土曜会を中道家本店にて開催。出席多数。菓子御土産を得て、雨歇みし機会に帰る。昨西唐津局、貯金払戻し未遂に終わりし事件に対し、本日の新聞にて散見す。署長に成り行きを尋ぬ。後八時飯る。降雨歇みたり。土産に菓子を貰ふ、恒例らし。

昭和11年12月13日（日）

午前八時出勤。区分競技会傭人は、午後二時より開催。二時間にて吏員は五時を過ぐ。此の間、主事補山口氏を招き、山中氏の批評を聞く。午後六時、講評賞品授与式を挙行す。此の日曇り、漸次寒くなる。朝の間は、猶暖かかりし。飯りに昨、秀夫より送り越せる葉書印刷350の小包を持参す。昨木下君より、印判90銭にて調製せし由にて送付あり。

昭和11年12月14日（月）

晴れ、後曇り。昨名護屋局長臨局。恰度午餐の際、済ましてから挨拶す。其の時の話に、逓信局長明日伊萬里平戸に行き、東唐津を経由する旨。余も特別に注意がなければ其の促過す積もりなりしが、11時号外来たり、調べさせしに、東唐津著午後0時40分、發午後0時57分と

あり。乃ち昼飯を済し零時20分出発、バスにて27分著。プラットホームにて田村逋信局長に挨拶す。清水氏従う、大川局長も迎ひに来たり居る。歓送して賑れば、食堂連ストーブを囲みて居る。黒岩君にボーナス辞令を交付す。序でに今回の発表の手当額下記の如し。

江崎256, 5、中島55、横町200, 5、福田170, 8、田代182, 1、石原102, 5、林180, 3、坂梨107, 5、熊本90, 6、志賀79, 5、中村78, 2、石川79, 5、山本71, 5、松野71, 5、小宮71、山口70, 4、鶴川71, 5、本田71, 1、田中67, 4、橋本75, 6、佐々木64, 4、村山64, 4、市丸60, 5、中山58, 4、大坪58, 5、秋山60, 5、岡本シ46、岡本キ田口橋本45、福49, 4、井上46, 4、永富45, 4、高柳47, 5、中島46, 4、八島48, 1、平山45, 5、江崎42, 4、山口45, 5、宮崎42, 5、井本42, 5、鶴41, 5、川添37, 5、久保29, 4、影35, 5、向井36、牛草28, 4、納富355、兼子124、前田26, 4、阿蘇124、納富ちよ2、宮口4、池辺3、黒岩60, 25、森田40, 2、松下35, 2、山口35, 2、中村34, 7、坂本21、中里222、林32、山中28, 5、牟田245、進藤24, 4、小田18, 7、山口232、坂田209、黒木209、坂本207、矢野森田古賀高柳209、吉田208、川崎232、印出井142、藤本14, 2、中島98、桑原97、浦田185、彦坂185、原183、梶山66、外尾183、岩田183、村岡183、志気148、山中126、土居126、植田松本126、中島125、谷口7、野崎7、佐藤7、竹尾66、行徳60、檜崎435、前田425、渡辺355、大野20、梅崎295、脇山255、浦川255、梅崎225、濱田23、江藤20、吉田22、吉田8、吉田8、長谷川友田8、武田二



85, 柴田275, 野口20, 永田20、浦川325, 手島323, 下尾328, 波多278, 水上277, 下尾22, 宮川54, 5, 峰32, 鳥巢32, 小野28, 井手口285, 吉村225、檜崎265, 岡本255, 桜井245, 宮口31, 江藤3, 峰2, 7, 戸野川2, 5, 七田7, 重田5, 大島しづこ5, 吉田27, 8, 坂本22, 8, 田中218, 大島218 (百四十三名分)

昭和11年12月15日 (火)

晴れ。此の日午後3時より、近松座柿茸落 (こけらおとし) 招待を受け道子を遣る。久子一兩日前より急性腸胃カタルにて寝込み、ひまし油など求めたるを見れば服用したるらし。恰度二時頃、左志局長臨局。名護屋局長、川添齒科に療治に來たり居る。同氏の誘いを容れ、出頭し來れるものの如し。間もなく名護屋局長も臨局。二時四十分頃道子來る、乃ち貳円祝儀持参せしむ。両局長は三時販らる。此の日、年末賞与のうち百五円受取る。総計五百四十。昨年より十円増。十一日辞令來る。小使いに各一円。給仕にも同額を計五円交付す。明日見習い試験を挙行するやに付き、問題を案出し時間を費やす。横町君、四時二十分出發。久松座の招待劇を觀覽すべく往く。余は五時販る。十時半道子歸る。小林判事、田中好太郎等諸氏に會合せりと云ふ。折り詰め持参せり。余起きざりし。

昭和11年12月16日 (水)

晴天、温暖春の如し。保険前納44円支払う。此日九時より、見習卒業試験一時間目服務。去る12日、蔣介石は張學良の爲幽閉、生命不明。号外にて大々的報道あり。後五時販宅。恒例により、年末賞与を道、澄各15円、久

10円交付す。庶務岡本氏よりカステラ歳暮あり、母堂と共に来邸。一兩日前は前田氏より砂糖貰ふ。昨中津木下由雄氏へ、印判92銭小為替組み本日郵送せり。頃日、寝る前、再び入浴の慣習あり。

昭和11年12月17日（木）

10月頃の気温、ストーブの必要なし。冬支度にては流汗を見る。気象上の異変と称せらる。明日は気温急遽下降、雪の恐れありと云う。見習実地、未だ試験終了を見ず。郵便部、呼鈴障碍工員工手総がかりで調査、漸く途中断線を発見す。飯塚局電報集配手、谷大助氏身元調査方、仲村茂吉（黒門局長）氏より申出に対し、渡辺福重氏に依頼の処、昨日回答あり。本日仲村氏に返信せり。判任官と思い居る如し。同人妻帯の意向らし。今日、処により驟雨あり。橋本君より歳暮として醤油一罐届けらる。畢竟ラジオアンテナ代貳円、強いて遣りしに対する返禮と思わる。佐賀市より久米氏採用、通知により来る。余は彼に、人間は目標なしにスタートを切ることが出来るものに在らず、何を目標として精進するやと質す。猶君の父親が来られた際、其の子の為には如何なる苦勞も忍びて他日の栄冠を期待すべきを、経済が許さぬとて中途退学せしめたるは、理由の如何を問わず感心せぬと真向より之を責めたるも、其の實、君の不真面目が済度すべからざるを認め退学せしめたりと見るを至当とすべし。宜敷く余の前に懺悔せよと追及、遂に兜を脱ぐ。仍（よ）って九州歯科医専に照會し、同時に臨時事務員として採用せり。中島君の娘も巖原より回答あり。年内出向不可能とあり。江崎君市外巡視。

昭和11年12月18日（金）

朝は曇り、降雨、出勤時歇む。午後四時より、市内双子町牟田マツ子氏父耘平（うんぺい）氏死去、葬儀を営む由にて、同時刻バスにて西唐津駅まで行きたり。中島、横町、石原、江崎氏等同行。往9銭帰路6銭。午後五時、植村逋信局書記、年末前予備視察として臨局。七時、大根屋に一泊。江崎、中島、福田、横町の諸氏と宿に至り夕食を済ます。十時半福田氏と帰宅。折柄降雨す、福田氏の洋傘に入れて貰う。余り遅く食事を摂りし為か、多少具合悪し。十一時寝床。

昭和11年12月19日（土）

朝名護屋局長臨局、植村氏を訪ふ積りなりけん。折節、既に出発後午後1時過ぎまで居らる。齒療治本日出来上がる予定とあり。本日左記諸氏、慰労金金券来る。松崎治生510、中島つや20、副島はつ97、石原熊雄165。見習卒業試験採点結果は川崎雪江、坂巻かねこ、中西よね子、辻田麻枝、塚本みゆき、久富悦子、而して湯浅きみえ、高柳勝美両名は成績不良再教育に付き、問合わせ中。此日庶務全員忘年会を浜崎町に開催、余を案内す。乃ち金貳円を寄贈して参加を辞退す。那須君より歳暮贈らる。愈々寒くなるらし、ラジオは謂う。

昭和11年12月20日（日）

昨夜九時頃電話あり。風呂より上りてかかりて見れば、相手は引込みたりと云ふ。果して夫れは橋本君が土産の折詰を運び来たりしも、既に門が閉鎖されある為、電話をかけたるも応答なかりし故、其の儘とし今日持参せりとの挨拶なりし。鮎一折、肴類一折あり。久子に絵葉書を

買わせ四拾錢、外に久子小遣い拾錢、道子五拾錢（ブラシ及び封筒代）とらる。賀状の宛名書き午後より初む。250枚、恰度10時まで書く。整理の為、零時半に及ぶ。

昭和11年12月21日（月）

昨朝の間無風。北側開放せしに、午後より風強く降雨、縁を濡らす。此日曇天、驟雨時々あり。出局、切手を貼付し250枚の賀状を発送す。年金三円貰ふ。昇給発表。見習明日卒業試験合格者八名中六名に対し、授与式挙行の筈。午後4時より電話主事補会議。六時閉会。改正法規に依り研究を進む。此日那覇鹿兒島間、無線開通ラジオ放送あり。一般通話は明日より取り扱わるる筈。

昭和11年12月22日（火）

夜半より降雨、歇まず。此の朝、珍らしく洋傘さしかけて出勤す。時々歇むことありしも、概して降り続く。午前九時より、電話見習卒業式各主事来列、父兄母姉列席。国歌合唱、卒業証書授与及び事務員採用辞令交付宣誓。局長訓示、閉会。恰度一時間を要せり。次いで茶話会、十時半散会。猶辞令の日付は、19日付けとす。逓信局より電話低利資金270円、残りを田代氏300円に振替方依頼せり。猶横町君をして田代氏に意向を尋ねしむ。差支えなき由、返事あり。

昭和11年12月23日（水）

朝曇り、雨模様。久子福岡に行く。秀夫かかり行かぬ由に付き、昨私製葉書代を振替にて発送せるに付き、多少久子を疑う。此時道子の余に対する態度不遜なり、之を窘（たしな）む。澄子加勢に弁解是れ努む。此日予報

を裏切り、天候頓（とみ）に快晴となる。日中温暖ストーブ不要。名護屋局長臨局。佐志局長を迎え招議する処あり。此間余各室を送視す。保険は集配手宿直室に移転す。午後の光線射し、室内暖かなり。此日二郎来りし旨、道子より電話あり。余の許に来る時に三時を過ぐ。二郎より満鉄に口ありとか、秋田にも勤め口ありとか云ふ。最後に例の問題を余より切出し警告す。五時過ぎ、二郎と一緒に帰宅すれば横町氏宅に居る。主事一同にて拾貳円の商品券を贈らる。各一人貳円の割。帰れば久子既に販宅し土産物を示す。中津に贈物にする由なり。夜11時火災あり。サイレン仕切に鳴る。更に申告し来る、興奮し安眠し得ず。此の夜冷却、屢々起き出て、床暖まる暇なかりしにも起因すと覚ゆ。此夜、元電話事務員たりし某、其母堂と来たり採用を哀願す。二郎夕食を済し六時出発、帰途に就く。

昭和11年12月24日（木）

晴れ、多少風あり。去る二十一日、佐賀西肥毎日新聞水谷某の為に一同無心され、此日同市九州時論溝口某、四拾錢遣わす。為替部主任と横町氏夫人、歳暮持参。糯米一斗五升、34錢の割合にて求めたり。愈々明日、餅搗きすと云ふ。夜寒冷。

昭和11年12月25日（金）

大正天皇祭。晴れ、朝の内曇り勝ち。八時十分出勤。庶務は誰も来て居らず、郵便に手伝ふ。葉書中、賀状がばらとなりて貰わるる向き多し。十一時販る。横町君出局し居る。昨日の挨拶をして引揚ぐ。途中横町を通過。鯨肉を売る者多し。公会堂附近にて小林判事、家族と市

内に出懸けらるるに逢ふ。販れば子供等、朝飯及び昼飯をも欠き、十時に来る餅搗きを待つ。四時になりしも来らず。不安となり飯盛氏の許に尋ねたるに、二十七日に来る筈なりと云ふ。そんな約束はせぬと、道子等甚だ不興なり。横町氏に尋ぬ。何れも用達しに出掛け誰も居らず。間もなく先方より電話あり。昨年午前中の約が、夜十一時となり閉口せしことあり。今年は確実の人物に依頼せり。定めし御宅も夜十時頃となるかも知れずと脅かされ、頗る当惑の態なり。余は御飯を温めて貰ふてそれを食す。今日不図も板巻氏より鯨肉を貰ふ。湯浅氏より砂糖を届けらる。鯨肉は此日煮て食膳に上す。四時半餅搗き人足来る、六時終了。一升五銭の割にて搗き賃とる。餅も一膳食ふ。割合午後は快晴、温かなり。八時入浴、夜分は可なり冷ゆ。

昭和11年12月26日（土）

曇り、時々晴れ。郵便物到着のもの一時借り受け、未だ発送せざるものに対し差出しの準備をなす。葉書百枚求め、例の印判を押捺して販宅。中村主事補結婚、馬公要塞に赴く由、辞職申出づ。中島主事の娘、厳原に残し来りたる者、来年勿々採用方照会す。六時帰宅、餅を煮て貰ふて夕餉とす。新聞号外、蒋介石西安より落陽に帰り、本日南京に向ふと云ふ。

昭和11年12月27日（日）

晴れ、幾分曇り。割合温暖なり。給仕居らず女小使世話をなし呉る。四時半帰途に就く。大手口方面を廻り、毛筆一本20銭にて求む。五時帰宅。各主任より歳暮持来る。本日飯塚村田氏より手紙あり。昨日余の為に下駄を

贈らる。其の事を附記し、目下の氏の境遇を訴え転勤を望めるもの。飯塚も最近、辞職者交換員中四名を出せる由。到着を見て賀状を書く。

昭和11年12月28日（月）

晴れ勝ち、気温暖かなり。葉書50枚求め、拾円紙幣出す。其の葉書、手当たりより見て不足を思わしむ。数へて見る、果して九枚足らず。吊銭も呉れず。恰度内容証明引受け居り、窓口混雑を認め少時閑散を待つ。吊銭を督促したるに25銭呉る。一円と認めたるやに思料さる。拾円やりし旨述ぶれば、其の分に吊銭呉る。自信のなき遣り方に呆れざるを得ず。中学五年級より五名、商業五年級より五名、応援に毎日出勤。五時半飯る。賀状認め、九時四十分寢床。

昭和11年12月29日（火）

曇り勝ち、時々日光を仰ぐ。詢（まこと）に温暖、春の如し。福岡市九州日報記者、お金貰ひに来る。ポケットマネー1円遣わす。午後3時過ぎ逋信局富田書記臨局。年末首計画を調査し、佐志局同盟罷業の新聞記事を確認かむべく同局に向はる。蜜柑四つ貰ふ。夕餐分配を俟たで飯宅、夕餉を済して八時再度出局。多忙状況視察す。九時飯り入浴。道子恙（つつが）らし、寢床を敷き休養せし如し。葉書再び50枚求め、大部分賀状とせり。知人の昇給者左の如し。55原口みつ、56吉竹力男、51栗林章、52恩塚重郎中野純一、49吉崎親寛、61永松毅、6級中島実蔵、57青木隆治。未だ患せざるも誤なきに庶し、猶5給渡辺福重、72吉田義雄、60三宅倉雄、53阿間法眼、58淵上隆行。三等局長中、知人にして昇給し

たる者左の如し。一級添田・中島義弼（ぎすけ）、上山田三・松岡鞆（とも）太郎、芳雄三・井手口愛造、菰田四・宮本守、四級鯰田・山本喜次郎、四級福岡大工町・上妻作次郎、一級福島県西本・金田重郎、三級仙台荒町・田中常顕、二級元寺小路・小野寺寛策、懐旧の情禁ぜざるものあり。金田重郎、田中常顕両氏に祝辞を呈し置きたり。夜六時より出局、九時帰宅。11時寢床。

昭和11年12月30日（水）

曇り、時々晴れ。暖かにして殆どストーブを焚く要なし。此日午後二時打切り、特別取扱をやむ。前年より七分増加。午饗振舞われたるも、うどんの方腹によしと思ひ、馳走にならざりし。献立鰯（ぶり）と大根の輪切り、白菜漬物。夕食を一度販りて自宅にて食し、再び出局せしも、片づき方早く、余自ら手を下すの要なし。八時過ぎ帰り到着。順に返書認む。11時寢床。

昭和11年12月31日（木）

大体晴れ、後多少曇り。到着郵便物も円満順調に取捌かれ、停滞を見ることなし。五時夕食時、一旦販ること先日來の如し。理髪屋に行きしも満員にて、待つも遺憾の嫌あり。引返し出局、十時過ぎまで居残る。定員外、中学及び商業学校生徒御用済み解雇。一場の訓戒を試む。帰宅入浴。夜うどんの馳走あり、余も食す。放送は11時を中心に、各一時間延長さる。12時は鎌倉より除夜の鐘の放送あり。余は之を聞かず、11時半販る。久子等も12時に近くして、待切れず寝る。